

小学校

平成 7 年 度

教育研究員研究報告書

家 庭

東京都教育委員会

平成7年度

教育研究員名簿

分科会	地 区	学 校 名	氏 名
第 5 学 年	江 東	亀 高 小	○片 岡 清 恵
	杉 並	沓 掛 小	福 田 幾久代
	足 立	東 伊 興 小	小 倉 和 子
	江 戸 川	小 松 川 第 二 小	立 石 肇 子
	小 平	花 小 金 井 小	小 川 雅 代
	東 久 留 米	第 二 小	満 留 淳 子
第 6 学 年	墨 田	言 問 小	竹 井 恵 子
	大 田	大 森 第 四 小	長谷川 洋 子
	世 田 谷	烏 山 小	北 澤 万 里 子
	八 王 子	第 十 小	◎白 鳥 み の る
	日 野	日 野 第 一 小	山 本 順 子

◎世話人

○副世話人

担 当 東京都多摩教育事務所指導課指導主事

倉 持 眞由美

目 次

I	研究主題設定の理由	2
II	研究の基本的な考え方	3
III	研究内容	
1	指導計画と評価計画	4
2	指導事例	
	第5学年	
	気持ちのよい住まいに	8
	事例1 身の回りをきれいにしよう	10
	事例2 気持ちのよい住まいについて考えよう	12
	第6学年	
	住まいを快適に	16
	事例1 窓はなぜあるの？	18
	事例2 窓から考えよう！	20
IV	研究のまとめと今後の課題	24

＜概要＞

社会の変化は、家庭生活及び子供の生活の中にも、様々な影響を及ぼしており、日常生活の中で子供が、生活の基礎的な技能や家庭の仕事を実践する力を身に付ける機会が減少している。そこで、児童が生活の主体者として自分の生活を見つめ、その中から課題に気づき、家庭生活をよりよくしようとする意欲を高め、主体的に解決し実践する力を身に付けることが大切だと考え、研究主題を「よりよい家庭生活を目指し、主体的に実践する力を育てる指導の工夫」とした。

研究は、「家族の生活と住居」領域を通して推進した。具体的には、児童が興味・関心を持ち、主体的にかかわることができる教材の作成、課題解決型の学習の展開の工夫、実践的・体験的な活動ができる場面の設定などを行い、授業研究により考察をした。

よりよい家庭生活を目指し

主体的に実践する力を育てる指導の工夫

—— 「家族の生活と住居」領域の指導を通して ——

I 研究主題設定の理由

目まぐるしく変化する社会において、子供たちが主体的に生きていくことができる資質や能力を育成することが今求められている。

そのためには、児童一人一人が様々な事象に関心をもち、何が問題であるかを見出し、自ら考え、主体的に判断し解決する能力の育成が重要であると考え。

社会の変化は家庭生活及び子供の生活の中にも、少なからず影響を及ぼしている。少子化、核家族化が進み、家庭の様々な生活習慣や年長者の豊富な経験が子供に伝わりにくくなっていること、さらに、家事の合理化、省力化が進み、子供が生活の基礎的な技能や家庭の仕事を実践する力を身に付ける機会が減少していることなどである。

そこで、家庭科においては、児童が生活の主体者として自分の生活を見つめ、その中から課題に気づき、家庭生活をよりよくしようとする意欲を高め、主体的に解決し実践する力を身につけることが大切だと考え、本主題を設定した。

具体的には、子供たちが興味・関心をもち、主体的にかかわることができる豊かな教材を吟味し、課題解決型の学習を積極的に取り入れ、多様な学習活動を展開できるよう工夫することなどを、研究の柱とした。

研究は、「家族の生活と住居」領域について深めることにした。この領域は、「食物」「被服」領域と比べると、子供たちは実生活で意識することが少ないせいか、興味・関心が低いように思われる。また、現在の日本の厳しい住環境を子供の力ひとつでは改善しにくい点、プライバシーにかかわる点などを配慮すると、実践化まで深めにくい領域でもある。

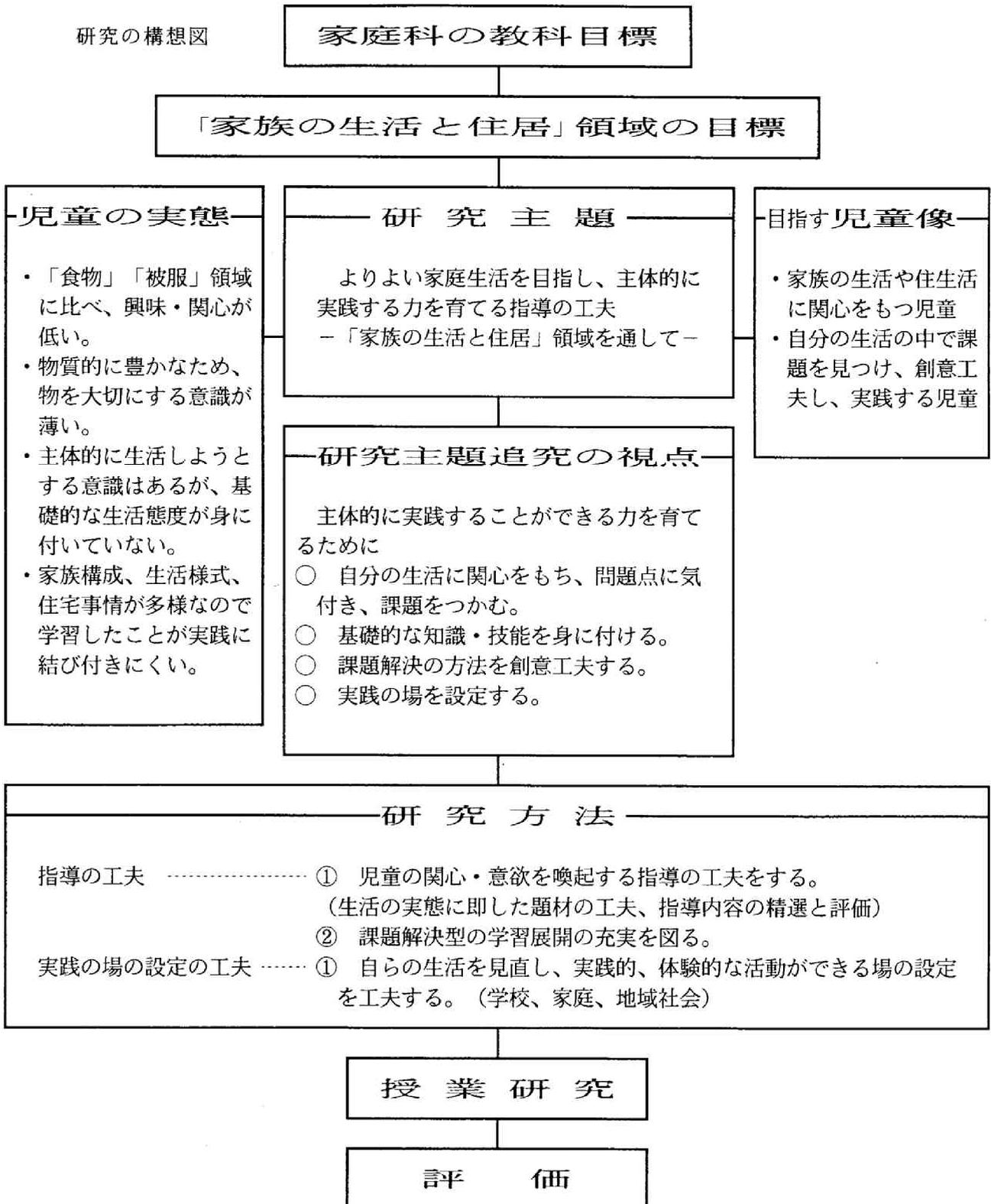
しかし、家族は温かくかけがえのないものであり、家族の一員として助け合い、思いやりをもって生活すること、また、住まいは生活の器として、家族が安らぐ憩いの場でもあり、生きるための基盤となる大切な場であることを踏まえると、この領域で研究を深めることは、大切なことであると考えた。

II 研究の基本的な考え方

研究主題に迫るため、研究の構想を立てた。

研究推進に当たって、第5学年分科会、第6学年分科会に分かれ、それぞれ児童の関心・意欲を喚起する指導の工夫、問題解決型の学習過程の工夫、実践の場の設定の工夫などについて、授業研究を行い検証していく。

研究の構想図



Ⅲ 研究内容

1 指導計画と評価計画

指導計画は、2個学年を通して家族の生活と自分の立場及び役割を理解し、家族の生活と住まいに関心をもつとともに、快適で安全な住まい方や計画的な生活の仕方を工夫することができるように、第5学年、第6学年の関連を図って作成した。

さらに、学習過程を児童自ら課題を見つけ、追求し解決していく態度を育てる課題解決型の学習になるようにし、自分の生活を見つめる場の設定を工夫し、実践的・体験的な学習を通して、「分かった」「できた」「やってみたい」という喜びや意欲をもたせ、家庭での実

(1) 第5学年(14時間)

学 期	題 材 名	時 数	過 程	小 題 材	主 な 学 習 活 動
一 学 期	家 族 と と も に	2	解 決 す る	○自分と家族について 考えよう ○協力して仕事をしよ う	・家族の役割について話し合う。 ・家の人の思いや自分の考えから、自分の仕事を決める。
		2	実 践	○実践の発表をしよう	・自分の仕事の実践計画を立てる。 ・実践したことを発表し合う。
二 学 期	気 持 ち の よ い 住 ま い に	2	見 つ め る	○身の回りをきれいに しよう ○気持ちのよい住まい について考えよう	・気持ちよい住まいをイメージする。 ・身の回りをきれいにする手順や方法を考え、 実践する。 ・きれいにした感想を発表する。 ・気持ちのよい住まいにするために必要なことを考える。
		6	解 決 す る	○片づけ上手になろう ○ごみのしまつについ て考えよう ○リサイクルしよう ○住まいを清潔にしよ う	・整理・整とんの経験をもとに、工夫している ことを発表し合う。 ・整理・整とんの方法について考える。 ・ごみを分別する。 ・ごみの分類の仕方やし方を知る。 ・ごみを減らす工夫やものの大切な使い方を考 える。 ・不用品について調べてきたことを発表し合う。 ・調べてきたことをもとに、掃除をする。 ・掃除が必要なわけを考える。 ・場所や汚れに応じた掃除について考える。
		2	実 践	○実践発表をしよう	・実践したことを発表し合う。

践に結び付くようにした。

なお、第6学年の「買い物の仕方や金銭の使い方」については、食物領域の調理実習や、被服領域の製作における材料の準備の際に、第5学年の物の活用に関する学習を基礎にして、品物の選び方や買い方、金銭の使い方など消費者として必要な態度を育てるようにした。

さらに、評価計画は指導計画に沿って作成し、評価の基準を設け、4つの観点を明らかにした。

評 価 規 準	評 価 の 観 点			
	関意態 心欲度	創工 意夫	技 能	知理 識解
<ul style="list-style-type: none"> ・自分が家族の一員であることに気付く。 ・家族の協力の必要性が分かる。 ・自分にできる仕事を見つける。 	●			●
<ul style="list-style-type: none"> ・進んで計画を立てる。 ・実践したことを発表しようとする。 	●	●		
<ul style="list-style-type: none"> ・イメージを絵などで表現する。 ・自分の身の回りを見直し、進んできれいにする。 ・感想を自分の言葉で発表しようとする。 ・気持ちのよい住まいにするために必要な方法を考える。 	●	●		
<ul style="list-style-type: none"> ・工夫していることを、発表しようとする。 ・整理・整とんの方法が分かる。 ・ごみの分類の仕方が分かり、分別ができる。 ・ごみを減らす工夫やものの大切な使い方が分かる。 ・進んで調べることができ、発表しようとする。 ・調べたことを生かして、掃除をする。 ・掃除が必要なわけが分かる。 ・場所や汚れに応じた掃除の方法が分かる。 	●	●	●	●
<ul style="list-style-type: none"> ・自分の家庭にあった実践を発表しようとする。 ・関心をもって、発表を聞こうとする。 	●	●		

(2) 第6学年(24時間)

学 期	題 材 名	時 数	小 題 材	主 な 学 習 活 動	
一 学 期	生計 活画 を的 に	6	2	①家庭ってどんなところ	・家庭の働きについて考える。
			2	②見直そう！家族の生活 時間	・生活時間を見直し、よりよい過ごし方を調 べ、発表する。
			2	③じょうずな買物	・金銭の大切さを知り、記録の仕方を調べる。
二 学 期	住 ま い を 快 適 に	12	1	①窓はなぜあるの？	・模型の家に入る。 ・快適に生活するための窓について考える。 ・窓から取り入れるもの、出すものを考える。
			3	②窓から考えよう！ ・日光 (採光と照明)	・採光の必要性とその方法を調べる。 ・日光の効果を調べ上手な利用法を考える。 南向きの窓や大きな窓と部屋の明るさ 暖かさと乾燥 殺菌と骨の発育。 ・照明の必要性とその方法を調べる。 ・照度計を使い、適切な照明の仕方を考える。
			2	・風(通風)	・風の通り道を観察し、風通しをよくする方法 を考える。
			1	・音と景色 (騒音と気分)	・音の問題について話し合い、騒音を出さない 工夫を考える。
			2	・季節 (夏のくらし・冬のくらし)	・窓から見える景色と気分について考える。 ・日本の気候の特徴を知り、より涼しく、より 暖かく住むための工夫を考える。 ・空気の汚れの原因を考え、換気の仕方を考え る。
			1	③住まいってどんなところ	・住まいの働きを知り、快適な住み方を考える。
			2	④見直そう！地域の環境	・快適に住むために、地域の問題点に気づき、 環境をよくする方法を考え、話し合う。
			三 学 期	生れ 活合 にい 触を	6
5	②贈り物を作ろう！	・家族への、贈り物の製作計画を立案し、製作 する。			

2 指導事例

<第5学年>

(1) 実態調査

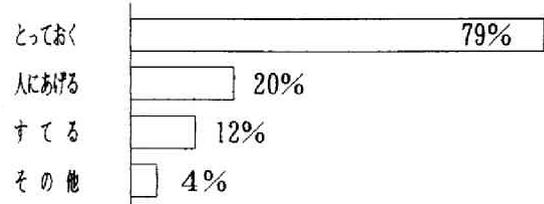
- ① 調査目的 児童の身の回りの持ち物の所有や、整理・整とんの実態に関する調査をし指導のための基礎資料とする。
- ② 調査対象 都内公立小学校6校の第5学年児童 450名
- ③ 調査時期と方法 平成7年6月下旬 質問紙法による無記名調査
- ④ 調査結果

ア あなたの持ち物について教えてください。

* あなたは、えんぴつを何本位持っていますか。 * 使わなくなったぶんぼう具はどうしていますか。

1～10本	20人	71～80本	19人
11～20本	52人	81～90本	11人
21～30本	78人	91～100本	11人
31～40本	79人	101～150本	21人
41～50本	55人	151～200本	5人
51～60本	33人	201～本	8人
61～70本	19人		

(複数回答)

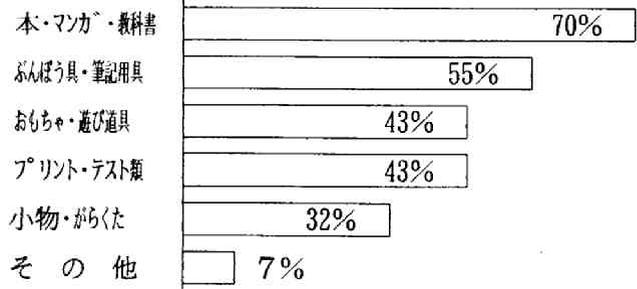


イ 自分で整理・整とんしているものは何ですか。

(複数回答)

* あなたの持ち物の中で、むだだなあと
思うものはありますか。

ある 36%	ない 64%
--------	--------



⑤ 考察

ア えんぴつや消しゴムは、キャラクターもの、においがついているもの等児童の興味を引きつけるものが多く、しかも安価なので欲しいと思えば簡単に買えるのではないかとされる。しかし、「無駄なものがある」と答えた児童は36%で、物があふれている現状の認識ができていない児童は少ない。そこで、資源を有効に活用すること、物を大切にするという意識をもつことができるよう指導する必要がある。

イ 約半数の児童は、自分の身の回りを自分で整理・整とんできている。しかし、ここにあげたものは、高学年にもなれば自分で管理して欲しいものばかりである。半数というのは少ないと言える。整理・整とんの必要性に気付き、上手な整理・整とんの仕方を身に付け、実践できるよう指導していきたい。

(2) 指導の実際

① 題材名 気持ちのよい住まいに

② 題材について

物が豊かに手に入り、児童の持ち物も増え、整理・整とんする物が多くなっている。児童は、気持ちよく住みたいという意識はもっているが、自分から整理・整とんや清掃をしようとする児童は多くないのが現状である。また、それぞれの家庭の生活習慣や家の構造の違い、家庭の仕事への参加の仕方等も様々である。

本題材は児童が清潔で気持ちよく住まうことを考え、日常生活の中で考えたことを実践できることをねらいとしている。指導にあたっては、まず最初に「住まい」についてのイメージを絵や文で表現し意識化させる。次に、実際に机やロッカーの中の整理・整とんなどの体験を通して、気持ちよい住まいとはどんな所かを考えさせ、上手な整理・整とんの仕方、ごみの処理や不用品の活用、身の回りの清掃などへと学習内容を焦点化する。また、身の回りの持ち物、家庭から出る不用品やごみを調べることを通して、活用していない物の多さにも気付くようにし、その原因や活用の仕方を考える。そして不用品を少なくするためには、必要のない物や無駄な物は購入しないことが大切であることにも気付くようにし、さらに資源の活用にも目を向け、有効な資源の使い方にまで学習を発展させたい。

住まいの汚れや清掃の仕方などの学習は、児童が興味・関心を比較的もちにくい。そこで、学習過程を工夫したり実践的・体験的な活動を具体的にどのように設定するか考えたりして、児童が主体的に学習に取り組み、意識的に学習できるようにさせたい。さらに、一人一人の児童の考えや工夫による活動を生かした考えを取り入れ、各家庭に合わせて創意工夫し、実践できる力を育てるようにしたい。

③ 題材の目標

- 気持ちよく住むために必要なことに気付く。
- 整理・整とんや清掃の仕方が分かる。
- 工夫して身の回りの整理・整とんや清掃をしようとする。
- 自分の持ち物の整理・整とんや材質に応じた適切な清掃ができる。
- ごみを減らす工夫や、物の大切な使い方を考え、実践できるようにする。

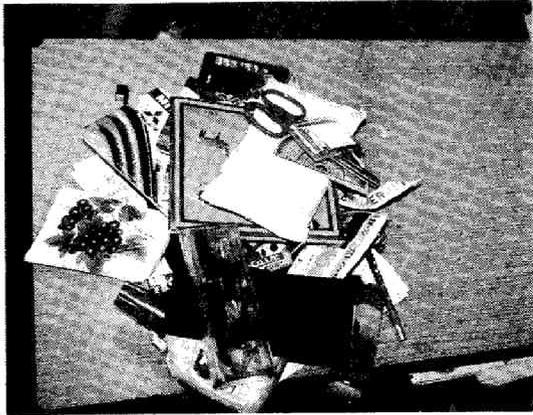
④ 指導計画（全10時間）

ア	身の回りをきれいにしよう	1時間（事例1）
イ	気持ちのよい住まいについて考えよう	1時間（事例2）
ウ	片づけ上手になろう	1時間
エ	ごみのしまつについて考えよう	2時間
オ	リサイクルしよう	1時間
カ	住まいを清潔にしよう	2時間
キ	実践発表をしよう	2時間

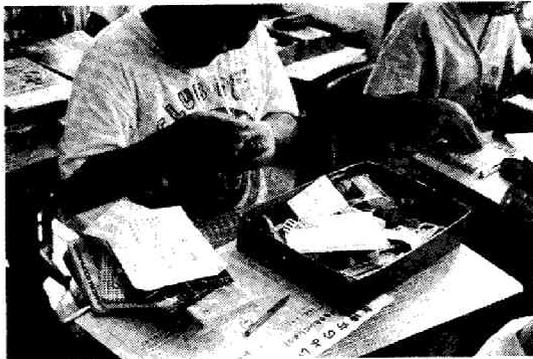
⑤ 事例1 「身の回りをきれいにしよう」(1/10)

ア 目標 ○自分の身の回りをきれいにする。

イ 展開



「何をどのようにならべようかな？」



「マジックの向きをそろえよう！」



「わあ！すっきりした」

学 習 活 動	教 師 の 支 援
○気持ちのよい住まいをイメージして、絵をかく。	○イメージを自由に書くことにより、住まいについて興味をもてるようにする。 ○絵がかけない児童には、文章などでもよいことを知らせる。
自分の身の回りを見つめよう	
○身の回りを見て、気付いたことを発表する。 ・持ち物がちらかっている ・床が汚れている ・ごみがいろいろな所にある。	○友達の発表を聞くことにより、自分が気付かない身の回りに気付くようにする。
自分の身の回りをきれいにしよう	
○どこをどのようにきれいにするか、自分で考え作業をする。 ・使いやすくする ・いらぬものをすてる ・使わないものを持ち帰る ・汚れをとる	○きれいにするための手だてを、自分で考えて作業に入ることをおさえる。 ○手だてが分からない児童には、きれいにしたい場所の様子を見直したり、友達の作業を見たりするように助言をする。
学習のまとめをしよう	
○作業内容や感想を記録する。 ○今後の学習について確認し合う。	○作業内容や作業後の気持ち(感想)をくわしく書くことで、きれいにするのよさにも気付くことができるようにする。 ○今後、今日の作業をもとに、気持ちよい住まい方の学習をしていくことを知らせる。

ウ 評価 ○自分なりに手だてを考え、きれいにすることができたか。

みんなが出したごみ



「まだ十分使える色鉛筆，定規，ケシゴムマジックなどもたくさん捨てられているよ」

評 価 (観点/方法)	資 料
<p>○絵や文章などで、住まいのイメージを表現する。(意/絵)</p> <p>○身の回りに関心を持ち、進んで発表しようとする。(意/発表, 観察)</p>	<p>○画用紙</p>
<p>○身の回りをきれいにする手だてを、自分なりに考え、意欲をもって、作業を進める。(意・創/観察)</p>	<p>○ワークシート ○ごみ箱 ○掃除用具</p>
<p>○自分の言葉でくわしく記録する。(意/ワークシート)</p>	

〈思ったこと、気づいたこと〉

今までかばんがたけど、きれいに出来る物がみんなにあるとは思わなかった。そういふときとしないときではまた違う。しだときの方が気持ちよく掃除などをする。気持ちのよい時と掃除はどっちが第1だと思っ
ぼくもこうゆうふうになるね。みんなとおもった。

道具箱，ロッカー，かばん，床などをきれいにしていた児童。

〈思ったこと、気づいたこと〉

みんながきれいにしたから教室がとってもきれいになった。だからみんなきれいにしたから気持ちがいいと思っ
た。さっ
ま歩いていて日寺はず
二くまたなからたけど今歩いてみるとみんなにきれいになるよなと思っ
たなと思っ
ました。

教室，黒板，黒板消しなどをきれいにしていた児童。

意→関心・意欲・態度

技→技能

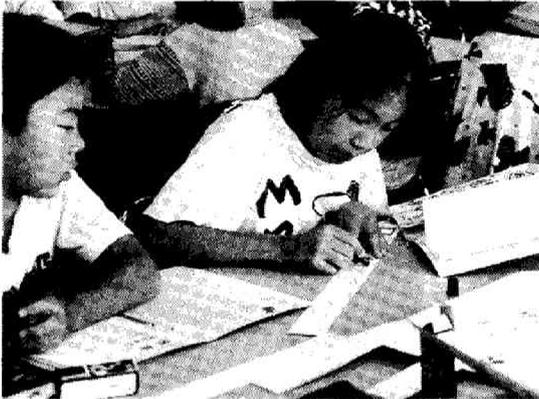
創→創意工夫

知→知識・理解

⑥ 事例2 「気持ちのよい住まいについて考えよう」(2/10)

ア 目標 ○気持ちのよい住まいにするために、必要なことが分かる。

○自分の家を見つめてこようとする。



「本だなを整とんしたよなあ」

【場所】	どこをなにを	【方法】	どのように(くわしく)
ロッカー		使いやすいよう整理した。	
お道具箱		ごみをすて、整理した。	
ゆか		ごみをかえたそうじをゆつてふいた。	
いす		水ぶきををした	
ロッカーの中		水ぶきををした。	
つくえの上		水ぶきををした。	
かべ		水ぶきををした。	
黒板のわがれ		水ぶきををした。	
ドア		水ぶきををした。	
机の上		水ぶきををした。	
体育着		ていねいにたたんだ	
ストローの上		水ぶきををした。	
つくえの上		水ぶきををした。	
かがみ		水ぶきををした。	

イ 展開

学 習 活 動	教 師 の 支 援
身の回りをきれいにした感想を発表しよう	
<p>○ビデオを見て、前時の活動を思い出す。</p> <p>○作業をした感想を発表する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・気持ちが良い ・すっきりした ・使いやすくなった ・これからもきれいにしたい 	<p>○前時の作業を思い起こすことができるようなビデオを用意する。</p> <p>○発表から、気持ちよく生活することが大切なことに気付くようにする。</p>
気持ちのよい住まいにするために必要なことはなんだろう	
<p>○「気持ちのよい住まいにするために必要なこと」を考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ものを分類する ・置き場所を決める ・安全なしまい方をする ・ごみをすてる <p>○カードを仲間ごとに、分ける。</p> <p>○カードを分類する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・整理・整とん ・ごみの出し方 ・そうじ <p>○自分が実践した方法や工夫を、色シールを使って分類し、分かったことをまとめる。</p>	<p>○各自がした方法や工夫をグループの中で発表し合い、カードにまとめていけるように見て回る。</p> <p>○カードを整理することにより、共通の方法があることに気付くようにする。</p> <p>○前のグループの発表を参考にカードを仲間ごとに分けてはるよう促す。</p> <p>○気持ちよい住まいにするために、必要な方法を分類したカードをもとに考えていくように助言する。</p> <p>○色シールをはることで、1つの方法だけではないことに気付くようにする。</p> <p>○気持ちよくするためには、いろいろな方法が必要なおさえる。</p>
自分の家を見つめてこよう	
<p>○前時に出した自分たちのごみを見て、気付いたことを発表する。</p> <p>○自分の家を見つめてくることを確認する。</p>	<p>○ごみの出し方について気をつけていることと、実際に出したごみを見直すことにより、さらに工夫しようとする意欲を喚起する。</p>



「整とんしたことや
そうじしたことに
分けようよ」

ウ 評価 ○話し合いや分類により、気持ちのよい住まいにするための方法が分かったか。

○自分の家を見つめてこようとしているか。

評 価 (観点/方法)	資 料
○積極的に、感じたことを発表しようとする。 (意/観察)	○ビデオ ○前時のワークシート
○グループで協力し合い、カードにまとめることができる。 (意/観察、短冊カード)	○短冊カード
○気持ちよい住まいにするために、必要な方法が分かり、自分が実践したことを分類する。 (意、知/観察、ワークシート) ○自分の言葉でまとめる。 (創、知/発表、ワークシート)	○色シール ○前時に出したごみ ○課題のワークシート

意→関心・意欲・態度
創→創意工夫

技→技能
知→知識・理解

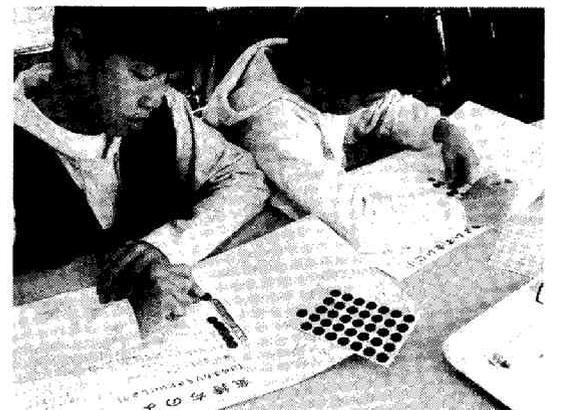
〈今日の学習でわかったこと〉

そうじは、整理整頓、そうじ、ごみの始末の二つの種類に分けられる。
ふだんは、そうじごみの始末をしているけど、整理整頓をやるともっと使いやすく、きれいになる。

板書例



黄緑色のカードにまとめて「整理・整頓」とし、同様に青色を「そうじ」、黄色を「ごみの始末」、桃色を「不用品の活用その他」として色別のカードに分類した。



「これは、そうじだから青シールだね」

(3) 考察

① 学習を始めるに当たって、児童が「気持ちのよい住まい」をどうとらえているか把握すること、さらに、児童の住まいに対する興味・関心を喚起することを目的として、「気持ちのよい住まい」をイメージしたものを絵や文で表現させた。児童の絵を見ると、「気持ちのよい住まい」を次のように考えていることが分かった。

- ・家の外観のみ（67.8%）……………ア
 - ・家の外観と中で暮らす人物（28.7%）……イ
 - ・家の中の人物、家具、花（3.4%）……………ウ
- このことから、やはり「住まい」というと、家や建物を思いうかべる児童が多いことが明確になった。



また、人物を書き入れていた児童が約30%いたことから、家を家族の生活の場、くつろぎの場という暖かいところとしてとらえていることが分かった。

児童の興味・関心が薄い「住居」領域を学習するに当たり実施したイメージ作りの学習は、学習意欲や興味・関心を喚起して有意義であった。さらに、指導する側にとっては住居の学習は家や建物の学習ではなく、どう住まうかという身の回りのことから学んでいくこと、児童にも実践できるものがあるということを確認していく必要性を実感した。

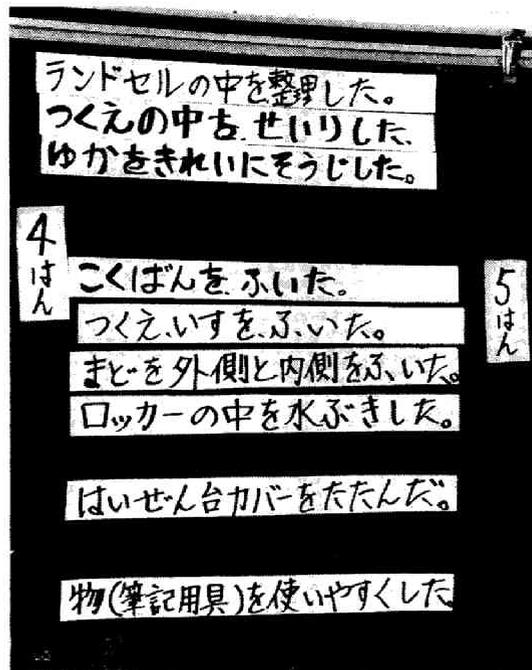
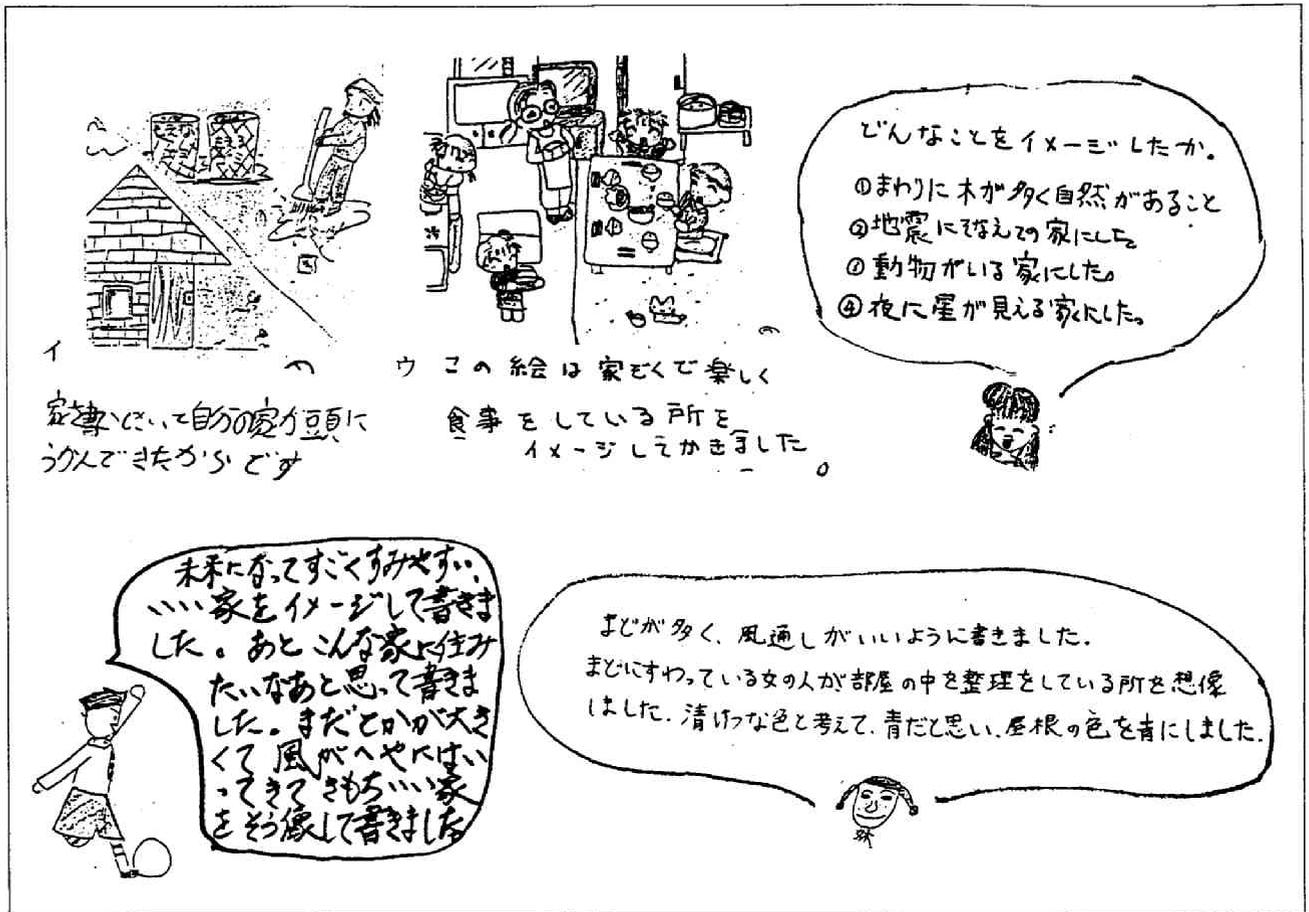
なお、「気持ちのよい住まい」をイメージした絵は、ワークシートをとじるファイルとして活用する。

② 第1時では、課題に目を向けるようにするために、まず身の回りをきれいにする活動を行った。始めは、整理・整頓よりも清掃を考える児童が多かった。今回は「身の回り」はどこか限定せず活動を始めたが、自分の引き出しやロッカー、それから教室全体へと目が向けられ、皆で共有している物にまで活動が広がっていった。水槽やボールを洗うなど、友達同士声をかけ合い協力し合う場面も見られ、意欲的に活動していた。また、指示を与えなくても一人一人が活動の場を見つけるなど、自主的に行動していた。学習後の感想では、「こんなにゴミがあるとは思わなかった。」「きれいになってすっきりした。」「やってよかった。」「すごくいい気持ちだった。」など、課題を十分達成した意見がほとんどであった。



さらに、「こんなにきれいになるなら、家に帰ってもやってみようと思う。」と書いてあるなど、学習したことを実践してみようという意欲も見られた。

【場所】	どこにも	【方法】	どのように（くわしく）
おどろいし	●	おどろいしを掃除機で掃除した。	
ロッカー	●●	ロッカーの中のゴミを掃除機で掃除した。	
床	●●●	床を掃除機で掃除した。	
机の上	●●●●	机の上のゴミを掃除機で掃除した。	
かばん	●	かばんの中のゴミを掃除機で掃除した。	



③ 第1時の作業を映したビデオを児童に見せたことは、自分達の活動を思い出すのにとっても有効であった。そのため、どの班も「実践したこと」をたくさんカードに記入することができた。しかし、カードに何を記入するかをはっきり指示しなかったため、「どのようにしたか。」等の工夫した言葉が書きにくかったようだ。また、ビデオの編集では、一人の児童の作業を通して映すなど、整理前と整理後の変化がよく分かるようにする工夫が必要であった。

学習後のまとめでは、ワークシートに黄緑、青、黄の色シールを貼らせることにより、自分のしたことを<整理・整頓><そうじ><ごみの始末>に分類した。どの児童にも、気持ちのよい住まいにするためにはこの3つが大切だということが、よく理解されていた。さらに、「片づけた後、使っていないものがたくさんあるので、リサイクルを考えたい。」とリサイクルに気付くなど、次時の課題にまで目を向けられる児童もいた。

<第6学年>

(1) 実態調査

① 調査の目的

児童の現段階での興味・関心のある領域と住まいに関するとらえ方や「家族の生活と住居領域の学習の実践度を調査し、「よりよい家庭生活を目指し、主体的に実践する力を育てる指導の工夫」に迫る支援のための資料とする。

② 調査対象 都内公立小学校3校の第6学年児童 187名

③ 調査期日と方法

平成7年9月中旬 質問紙法による無記名方式

④ 調査結果

ア あなたは衣服、食物、家族と住まいの学習の中で一番興味・関心があるのはどの学習ですか？

- 衣服 —— 37名(20%) ・家族と住まい —— 12名(6%)
○食物 —— 138名(74%)

イ あなたにとって「家」とはどんなところですか？(回答複数)

- 住むところ —— 36名 ○安心できるところ —— 59名
○生活するところ —— 98名 ○楽しいところ —— 17名
○寝るところ —— 87名 ○家族で過ごすところ —— 32名
○食べるところ —— 60名 ○自由にできるところ —— 14名
○体を休めるところ —— 19名 ○いたくないところ —— 2名

ウ あなたは「家族と住まい」の学習を実践したことがありますか？(回答複数)

- 整理・整とん —— 133名(71%) ○ごみ出し —— 153名(82%)
○掃除 —— 124名(66%) ○リサイクル —— 71名(38%)
○ごみの分別 —— 126名(67%) ○廃品回収 —— 1名(0.5%)

⑤ 調査結果と考察

ア この設問は児童の興味・関心のある領域を把握することを目的としている。食物領域が74%と圧倒的に興味・関心が高く、家族の生活と住居の領域は6%と最も少ない結果となった。以上のことから「家族の生活と住居」の領域こそ、児童の興味・関心を高めることができるような学習内容の精選や教材・教具、指導法の工夫が必要であると考えられる。

イ この設問は児童が現段階で、「家」をどうとらえているかを知ることを目的としている。結果から児童は「家・住まい」を基礎的な生活の場として、とらえることはできていると推測される。しかし安心して体を休めたり、家族で団らんするなど生活の場以外の大変な働きがあるととらえている児童は少ない。さらに「いたくないところ」と答えた児童の存在も無視することはできない。そこで、「住まい」の大切さを知ることができる学習の展開を工夫する必要があると考えられる。

ウ この設問は現段階での「家族の生活と住居」領域で学習した内容の、児童の実践度を知ることを目的としている。興味・関心の低い領域であるにもかかわらず実践度は高い。

このことから当初興味・関心が低くても、教材・教具や指導法の工夫をすることにより仕事の実践化が図れ、生きて働く力が育成されると推測される。

(2) 指導の実際

① 題材名 「住まいを快適に」

② 題材設定の理由

児童は第5学年の「気持ちのよい住まい」で身の回りの整理・整とんや清掃、ごみや不用品の処理の仕方等について学習している。第6学年の「家族の生活と住居」領域の学習を指導するに当たって児童の実態を把握するために実態調査を行った。その結果、児童は「家族の生活と住居」領域への関心は低く、住まいも単に食事をしたたり寝たりする場としてとらえており、生命の保護や健康の維持、休息や団らんの場合、家事労働をする場等の重要性にはあまり気付いていない。住居に関しては興味・関心の薄い原因のひとつとして「着る・食べる」と違い、問題点が明らかになっても児童自身の力だけでは解決しにくいことが推測される。

そこで児童が「住むこと」に興味・関心をもち、さらに快適な生活のために自分で工夫し、実践できるように「窓」に着目し、学習の要とした。「窓」を通して採光、通風、換気の仕方、夏や冬の快適な暮らし方等の学習が展開するよう、題材の配列を工夫した。身近な「窓」を教材として提示することにより児童の学習意欲が高まり、主体的に実践する力が育つと考えた。住まいは家族が生活する大事な器であることを理解し、よりよい住まい方の工夫ができるようになることを願い、本題材を設定した。

③ 題材の目標

ア 窓に興味・関心をもつ。

イ 日光や採光、照明、通風が必要であることが分かる。

ウ 気候の変化に対応する住まい方が分かり、快適に過ごそうと工夫する。

エ 暖房や換気の仕方が分かり、安全に留意して暖房器具を扱ったり換気をしたたりすることができる。

オ 住まいの働きが分かり、快適な住まい方を考え工夫する。

カ 住んでいる地域に興味・関心をもち、環境をよりよくしようとする。

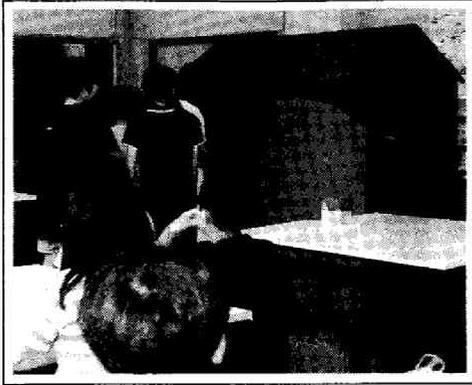
④ 指導計画

題材名	時数	小題材名
住まいを快適に	12 時 間	1 ① 窓はなぜあるの? 《事例 1》
		3 ② 窓から考えよう! 《事例 2》 ・日光(採光と照明)
		2 ・風(通風)
		1 ・音と景色(騒音と気分)
		2 ・季節(夏のくらし・冬のくらし)
1 ③ 住まいってどんなところ		
2 ④ 見直そう! 地域の環境		

⑤ 事例1 「窓はなぜあるの？」(1/12)

ア 目標 快適に生活するための窓に興味・関心をもつ。

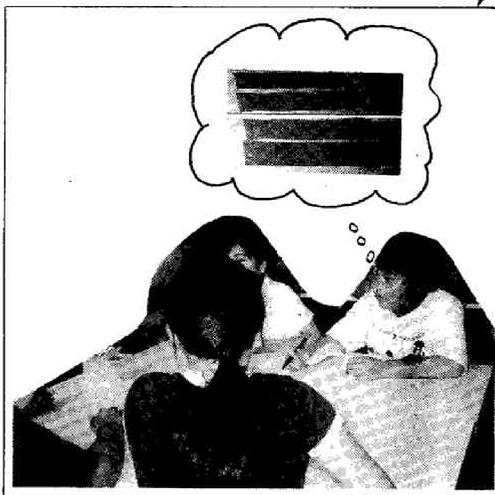
イ 展開



○模型の家
児童の興味・関心を喚起する目的で、模型の家を作成し、家を見つめ直すことができるようにした。

家の中	住みやすくしよう	なぜ家には窓があるのだろう
・暗い→→電気	・暑い→→クーラー	・臭い→→換気せん
		○取り入れるもの 出すもの
		<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>
		<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>
		<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>

◇板書例



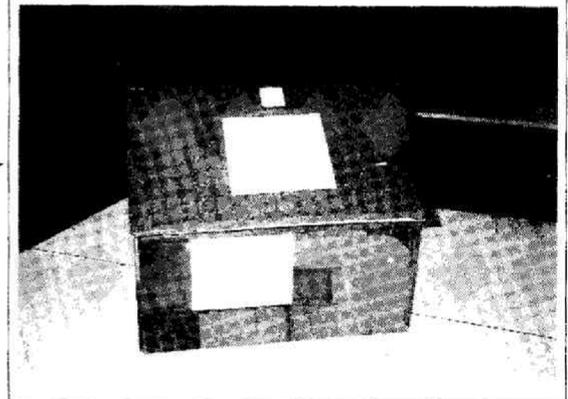
学 習 活 動	教 師 の 支 援
○窓のない模型の家を見る。	○5・6人の児童が入れるくらいの家を用意する。
家の中に入ってみよう	
○家に入った感想を発表する。 ・暗い・暑い	○班毎に活動し、全員が家に入るようにする。
どうすれば、住みやすくなるだろう	
○家に何があればもっと住みやすくなるか考え発表する。 ・窓・電気・クーラー	○住みやすくなる条件をたくさん発表することで、最初にはしいのは窓であることに気付くようにする。 ○どの家にも必ず窓があることを確認する。
なぜ、家には窓があるのだろう	
○窓から取り入れるもの出すものは何かグループで考え短冊に書く。	○光、風、音、汚れた空気、臭いなどが出入りすることに気付くようにする。
○短冊を黒板に貼る。 ・光・風・空気	○窓がなかったらどうなるか考えられるように助言する。
窓は、この家のどこにつけたらよいだろう	
○グループで話し合いながら、ダンボールの家を使って窓をつける。	○窓にする画用紙を用意し、はさみで好きな大きさに切るように助言する。
○グループごとに発表する。	○東西南北をダンボールの家につけておく。 ○発表をまとめる。 ○窓から取り入れるもの出すものの中から太陽光の役目について考えていくことを知らせる。

ウ 評価 快適に生活するための窓に興味・関心をもったか。

評価の観点と評価	資 料
<p>○家であることが分かり、何をするのだろうと興味・関心をもつ。 (興味・関心/観察)</p>	<p>模型の家</p>
<p>○家に入った感想を発表しようとする。 (興味・関心/観察)</p>	
<p>○感想と関連して発表しようとする。 (関心・意欲・態度/観察)</p>	
<p>○窓から取り入れるもの出すものを短冊に書く。 (創意工夫/机間指導)</p>	<p>短冊</p>
<p>○窓の大きさを決め、窓が貼れたか。 (創意工夫、技能/机間指導)</p>	<p>ダンボールの家 画用紙</p>
<p>○発表しようとする。 (興味・関心/観察)</p>	



○授業風景



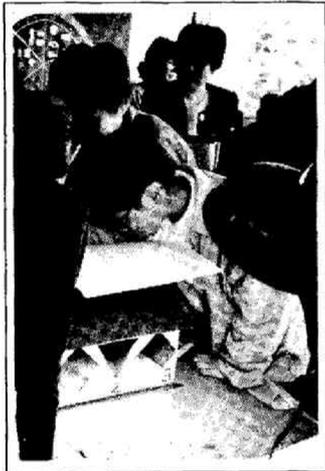
○ダンボールの家

児童たちが創意工夫できるように、ダンボールの家を用意した。また、窓は貼ってはがせるのりを使用し、試行錯誤しやすいように工夫した。

⑥ 事例2 「窓から考えよう！」(2/12)



○昔の家の写真



○実験のようす

○発表のようす



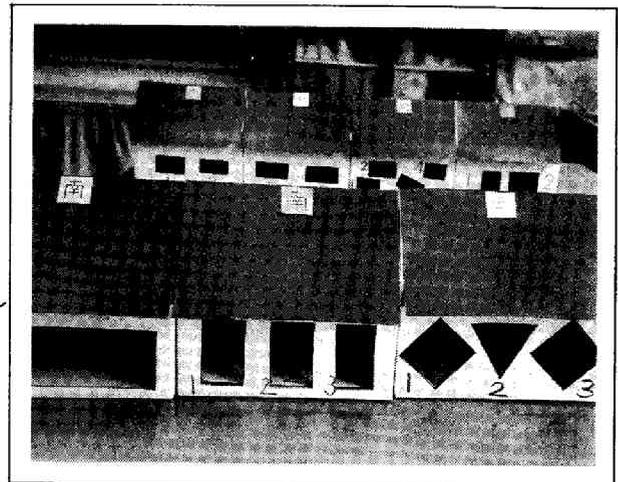
- ア 目標 ・光りの差し込み方に興味・関心をもつ。
 ・よりよい採光の仕方が分かり、工夫しようとする。

イ 展開

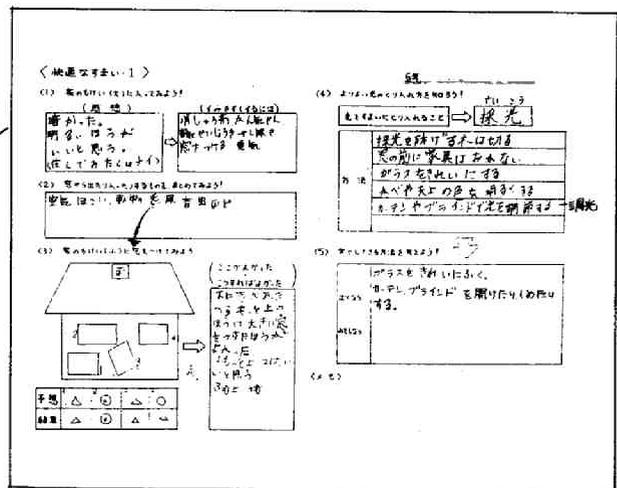
学 習 活 動	教 師 の 支 援
○本時のめあてを知る。	○知らせるために、前時に作成した短冊を掲示する。
○前時に家の模型に付けた窓を確かめる。	○家の模型は窓をくりぬいておき班毎に配る。
この家の南側から日光はどう差し込むだろう？	
○差し込み方を予想する。	○南側の特徴を知らせる。
どのように差し込むか実験しよう！	
○家の模型と照明灯を使って光りの差し込み方を確かめる。	○協力して実験結果が性格に出るように班毎に支援する。
○つけた窓がよかったか話し合う。	○班毎に助言をする。
○話し合いの結果を発表する。	○よいところは認め、ほめる。
○よい窓の条件を知る。	○発表を生かしてまとめる。
よりよい光りの取り入れ方を知ろう！	
○よりよい採光のための工夫を知る。	○よりよい採光の工夫が分かるように、具体的な資料を提示する。
○自分で実行できそうな採光の工夫を考える。	○机間指導をし、個別に助言をする。
○考えた採光の工夫について発表する。	○よいところは認め、ほめる。
○本時のまとめをする。	○児童の発言を生かし学習が実践しやすいようにまとめる。
○次時の学習を知る。	○日光の働きについて学習することを知らせる。

- ウ 評価 ・光りの差し込み方に興味・関心をもてたか。
 ・よりよい採光の仕方が分かり、工夫しようとしているか。

評価と方法	資料
<p>○光りの差し込み方に興味・関心をもつことができる。 (関心・意欲／観察)</p> <p>○よりよい採光の仕方が分かる。(知識・理解／観察) ・自分で実践できるよりよい採光の仕方を工夫しようとする。(創意工夫／観察)</p>	<p>短冊</p> <p>家の模型・小</p>
	<p>ワークシート</p>
	<p>ワークシート</p> <p>家の模型・小</p> <p>照明灯</p> <p>マジックペン</p>
	<p>窓の写真</p>
	<p>のこぎり</p> <p>汚れたガラス</p> <p>家具の模型</p> <p>植木の模型</p> <p>白と黒の紙</p> <p>カセット</p> <p>写真</p> <p>ワークシート</p>

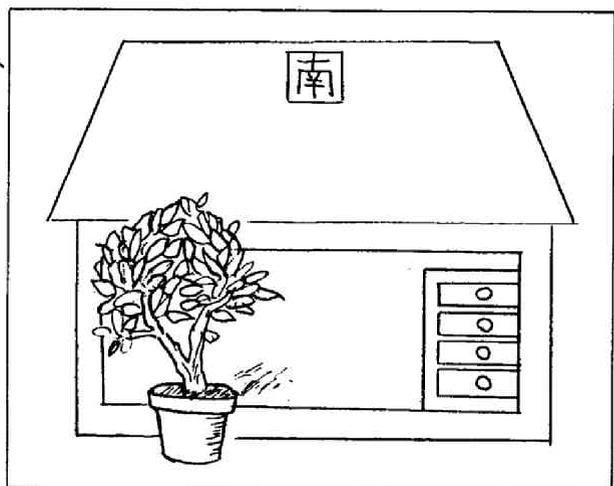


○各班が模型に開けた窓



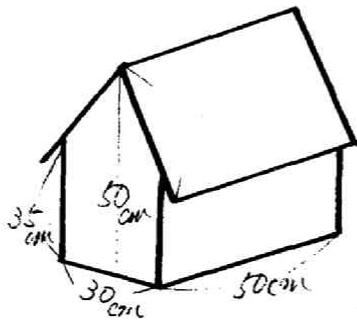
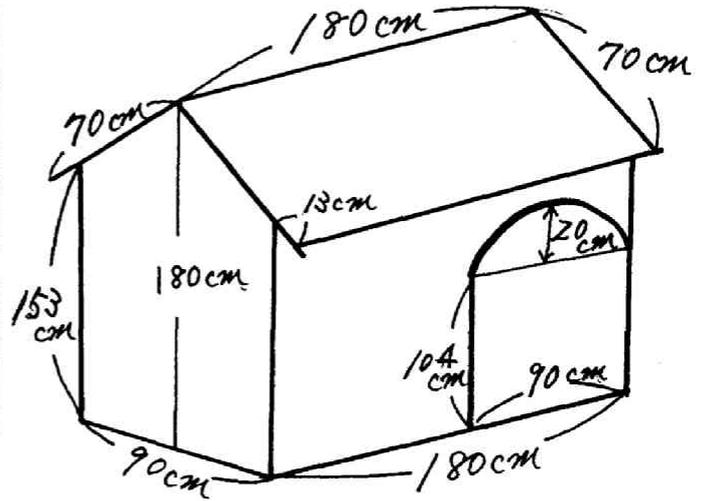
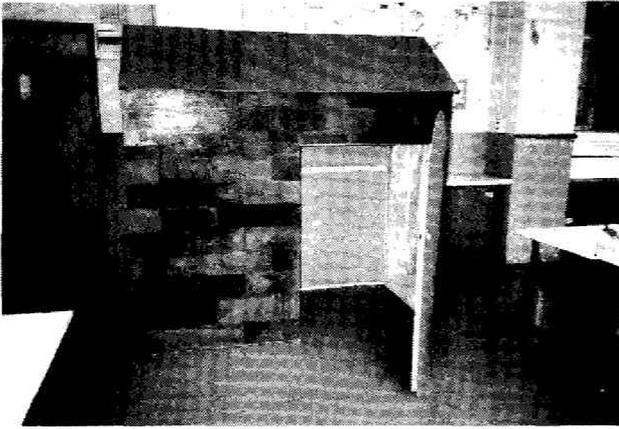
○ワークシート

○よくない採光の例を知らせる教具



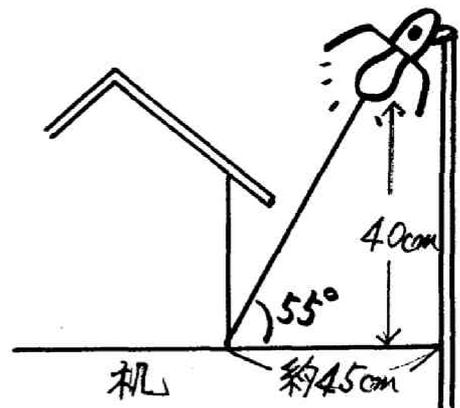
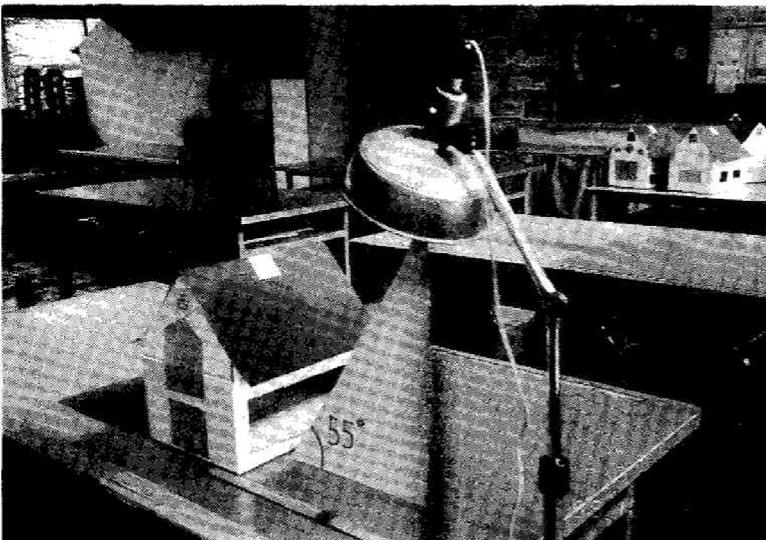
(3) 資料

- ① 事例1の授業の導入に使用した大きな家の模型
(ベニヤ板を使用)



- ② 各グループで使用した小さな家の模型は、郵便局のユーパックの箱、オレンジ、グレープフルーツのくだものの箱を利用。

- ③ 事例2で使用した家と電灯の配置
(太陽の通り道を春分、秋分の日とした)



9 考察

(1) 事例 1

児童の家庭生活，ことに「住まい」については個々の差が大きく，共通課題をもって意欲的に取り組むようにすることが難しい。そこで，「窓」を取り上げ，キーワードとし，児童が身近な問題として学習に取り組めるよう工夫した。

① 家の模型（大）

窓のない家実際に入る体験をすることで「窓」の重要性に気付き，興味・関心をもって児童は学習できた。また，共通な課題をもつこともできた。

② 家の模型（小）

班毎に家の模型を用意した。直接に目で見ても手で触れることができ，班員同士の話し合いが活発になった。さらに，窓を画用紙で切って作ったり，その窓を家の模型に貼ったりする作業は，楽しみながら自分たちの考えを深めるのに効果的であった。

③ 発表の仕方の工夫

各班の意見を班毎に色を変えた短冊にまとめて黒板に貼った。これにより，各班の意見を確認したり，生かしたりしやすかった。

(2) 事例 2

窓から日光を導き入れて室内を明るくする採光について，児童が興味・関心をもって学習できるように実験や教具などを工夫した。

① 実験

前時，児童は窓を何処に付けたらよいか考え，家の模型（小）に窓を付けた。この窓が採光の点からよいかどうか実験をして，確認した。

まず，窓に光を当てたら光はどう差し込むか予想を立てた。次に照明灯を太陽に見立てて光の差し込み方を確かめた。この過程を通して，児童は光の差し込み方に興味・関心を持ち，実験結果からよい窓の条件を考えることができた。実験装置は，現実の太陽に近いものとなるよう，高度や位置などを工夫した。照明灯は，学校の保健室にあるものを活用した。

② 教具（採光の工夫）

ア 汚れたガラス……………透明なセロファンと汚れたセロファンを窓ガラスに見立て，
対比して見るようにした。

イ 家具や植木で光を遮断……………部屋の模型に家具や植木のミニチュアを置き，光を
遮る様子を実感できるようにした。

ウ 壁紙の色……………明るい色の壁紙と暗い色の壁紙を貼った部屋の模型を用意し，部
屋の明るさの違いに気付くようにした。

エ 家の写真……………学校の近くの窓に特徴のある家の写真を提示して，窓のイメージ
をふくらませた。

上記の事例 1，2 のように模型を使ったり，実験をしたり，資料を活用したりの学習の後児童は，現実の生活にも目を向け，改めて窓を見直し，窓に対してより興味・関心を高め，自分にできることに取り組もうとする意欲や態度が見られた。

IV 研究のまとめと今後の課題

本年度は、主体的に実践することができる力を育てるために、教材や指導内容を工夫し学習方法、実践的・体験的な活動の場の設定などを考慮し授業を行った。

- ・ 児童の関心・意欲を喚起するために、実物、模型、ビデオ、実験など、視覚や感覚に訴える教材・教具を工夫した。
- ・ 学習の展開については、児童にとって身近な共通の課題を提示したり、共通に体験できる場面を設定したりし、児童が自ら考え、解決できるようにした。
- ・ 題材は、児童が見通しをもって学習に取り組めるように系統的に配列し、学習した後の家庭での実践につながるように配慮した。

1 第5学年分科会のまとめ

- ・ 始めに体験的活動を取り入れたことにより、今まで気が付かなかった自分の身の回りに興味・関心をもたせることができた。
- ・ ワークシートの形式を工夫し、題材を通して使用することで、見通しをもって学習に取り組む、家庭での実践を促すことができた。
- ・ 生活を見つめる→共通体験→よりよい方法を考え、解決する→家庭で実践してみるという課題解決型の学習により、家庭生活をよりよくしようとする意欲を高めることができた。

2 第6学年分科会のまとめ

- ・ 「住まい」の学習は、児童自身の力だけでは解決しにくい問題があり、個人差も大きいですが、窓という身近な課題を提示することにより興味・関心を喚起することができた。
- ・ 分かりやすい題材名や題材の配列を工夫することにより、なお一層実践に結び付きやすくすることができた。
- ・ 大小の家の模型や、照明器具を使った実験など、教材・教具を工夫することにより、学習意欲を喚起することができた。

3 今後の課題

- ・ 児童の実践意欲を高め、主体的に取り組むための教材・教具については、さらに工夫していく必要がある。
- ・ 児童一人一人が実践によって、どのように変容したかをとらえるための評価の工夫など学習の過程を大切にしたい評価については、さらに研究を深めていきたい。